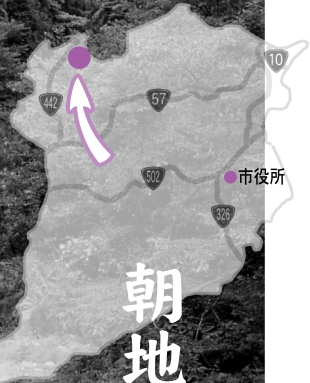


訪ねて ふるさとを

朝地町小川の おがわの



小野宗雄さん
自治委員。
若者はいなくなったが、これから地域を守りたい。



小野正敏さん
大分市がすぐ隣。国道を改良してもらい、もっと交流を深めたい。



小野長喜さん
5月頃のシャクナゲが見応えがある。気軽に立ち寄ってもらいたい。



小野敏子さん
手料理ともてなしに感動。笑顔がステキでした。



小野久喜さん
元教育委員長。“御接待”が途切れて寂しい。



小野光夫さん
地元の猟師。猟期にはイノシシを30頭は捕る。



小野正勝さん
水は美しいし、住みやすいところ。ふるさとが一番。



ここは、市役所から50分ほどの大分市境にある集落。清らかな水の流れと深い山に囲まれ、清々しい気持ちになれる場所です。

区の世帯数は11戸、26人。国道442号が南北に通り、主な産業は林業・椎茸で、平均年齢は70歳を超えています。神角寺に近いこの一帯には、石楠花が群生し、4月中旬〜5月中旬にかけて満開の花が見られます。

特に、国道沿いの小野長喜さん・小野正勝さん宅付近に咲く石楠花は、素晴らしいと評判です。

市内はもとより、県内外からの観賞者も多く、年間500人ほどが訪れるそうです。

取材の中では、救急車の搬送先に対する希望や交通事情に関する改善の検討が話題になりました。



▲線彫りされた三尊像 (市指定の文化財)

発見

ひっそりと…

◇小川野磨崖仏

国道から脇に外れて、林道を進む。杉林の中に椎茸の原木が整然と立ち並んでいた。その林内を進むと「磨崖仏」はあった。彫刻されたのは、室町末期大永4年(1524年)とあり、今から約480年も前のことである。



▲水車が郷愁をさそう…